

共同作品制作の指導について

俳句＝「子規さん俳句かるた」の中から選ぶ

松山市教育委員会（松山市立子規記念博物館、友の会）から、各小学校へ「子規さん俳句かるた」が配布されています。子規は、慶応3年（1867年）に松山で生まれました。「俳聖」と呼ばれ、国内外でその名が知られております。2万3千句を超える句の中から72句を選んで「子規さん俳句かるた」が出来ました。

この「かるた」を使って、かるたとりをしたり、好きな句を筆で表現しているうちに、子規さんが自分の身近にいるような気持ちになります。子規さんの俳句から感じること、学ぶことが多くあります。

それを大切にしながら、「子規さん俳句かるた」の中から、各自が選んだ句を、数人で大きいサイズの紙に表現するのが共同作品制作です。

共同作品制作について 目標＝「言葉の力」・「筆の力」・「心の力」による作品制作

準備物 → ロール紙・新聞紙・各自の筆・大筆・バケツ・墨液・文鎮・下敷き・養生の布・はさみ・のり

一回目 ＝ 構成を考える

① 新聞紙へ練習（縦横自由）＝各自の俳句 名前の位置を考慮（名前は作品の一部である）。 1枚残す

※留意点⇒ 新聞紙の方向（縦か横）は作意と大いに関連する。句のイメージを新聞紙へ反映させるには、作意（心）が自分との関わりにおいてしっかり理由付けされていなければならない。

②各自表現したのを見ながら、新聞紙（160cm×3m）への構成を考える。リーダーは新聞紙へ色鉛筆で印を入れる。 ※各自の配置は、均等分割ではなく変化を付ける⇒中心となる作品を決める。

③ 表現する。 1枚残す

※強調したい言葉（5・7・5）を発見させる。自分にとって大切な言葉＝強調 ⇒ 「言葉の力」

※始筆の角度や字形等、書写で学習した基本用筆を踏まえて表現する。 ⇒ 「筆の力」

※感動を与える作品＝「きれいに書く」ことだけではない。「美」の多様な要素が表現されなければならない。

鑑賞者を意識することによって「感動を与える作品」が生まれる。⇒ 「心の力」

二回目 ＝ 自分への課題を持つ

① 新聞紙作品について意見交換する。 ※作意をイメージし、「言葉の力・筆の力・心の力」は発揮できたか。

新聞紙作品を「よく見、よく味わい、よく考える」⇒何かを発見できれば、課題を持つ事ができる。

② 新聞紙（160cm×3m）へ、全体の構成と各自の配置を考える。※リーダーは色鉛筆で各自の位置に印を入れる。

③ 各自、新聞紙を配置のサイズに切り練習する。※各自の強調したい言葉を確認し心に留める。

④ 新聞紙（160cm×3m）へ練習し、 1枚残す ※心をつにして、一度に二人ずつ書く。

⑤ ロール紙へ鉛筆で配置の印を入れ表現する。 1枚残す

三回目 ＝ 作品を仕上げる

① 各自の課題を確認し意見交換する。

全体の構成はいいか、強調したい言葉は表現できたか、名前の位置等確認させる。

② 観る人の心が動く（感動）作品制作となるよう努力する